

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ナシ黒星病の防除対策（技術情報第 5 号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

県内ナシ産地において、ナシ黒星病が多発しているほ場がみられます。地域、またはほ場によって発生量に差があり、特に標高の高い地域で多発傾向にあります。このため収穫前の防除を徹底し、果実の被害を防ぎましょう。

1 発生状況

- (1) 6 月中旬に行った、県内主要ナシ産地における巡回調査では、菊池地域の山間部で 14～34%、金峰山山麓の熊本地域で 0～26%、八代地域で 0～4% の発病葉率を確認した。標高の高いほ場で多発している傾向にある。ただし、同じ地域でも多発園と未発生園が混在しており、園地によって発生量に差があった(表 1)。
- (2) 各地域の普及指導員や病害虫防除員による調査では、玉名・荒尾、宇城、球磨地域においても、平年の発病に比べると多～やや多の発生であった。
- (3) 果樹研究所(宇城市)の無防除ナシ園では、5 月中旬以降、発病葉率が増加し、6 月中旬には 60% を超えていた(図 1)。

2 防除対策

今年は、3 月下旬～4 月上旬(開花期)の低温と降雨、5 月中旬以降の多雨によって発病しやすい状況にあったことに加え、梅雨期の連続降雨によって防除のタイミングを失ったことが大きな要因と思われる(図 2)。

今後もしばらく多雨傾向が続くと考えられるので、果実への感染に注意する。

- 1) 本病の発生が平年並以下のほ場では・・・

防除歴に従い適期に薬剤散布を行う。SS 散布で薬剤のかかりにくい場所は、手散布で補う。

- 2) 発生の多いほ場では・・・

防除歴の散布に追加して、防除効果の高い DMI 剤又はメトキシアクリレート系の薬剤を散布する(表 2)。

散布に際しては、ラベルをよく確認し、基準に従って散布する。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所病害虫研究室

予察指導係(病害虫防除所) 担当: 福永

TEL 096-248-6447 FAX 096-248-6493

表.1 ナシ黒星病の発病例

地域	ほ場	発病葉率(%)
荒尾地域 (6/16 調査)	No.1	0.0
	No.2	0.0
	平均	0.0
菊池地域 (6/19 調査)	No.1	34.0
	No.2	30.0
	No.3	14.0
	平均	26.0
熊本地域 (6/20 調査)	No.1	26.0
	No.2	0.0
	No.3	24.0
	No.4	4.0
	No.5	0.0
平均	10.8	
八代地域 (6/18 調査)	No.1	4.0
	No.2	0.0
	平均	2.0
球磨地域 (6/12 調査)	No.1	0.0
	No.2	0.0
	平均	0.0
平均		16.5

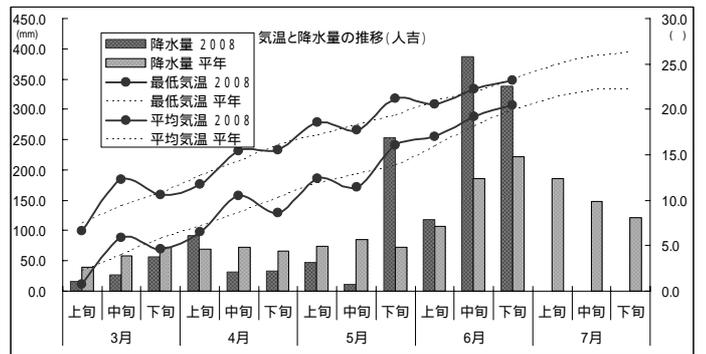
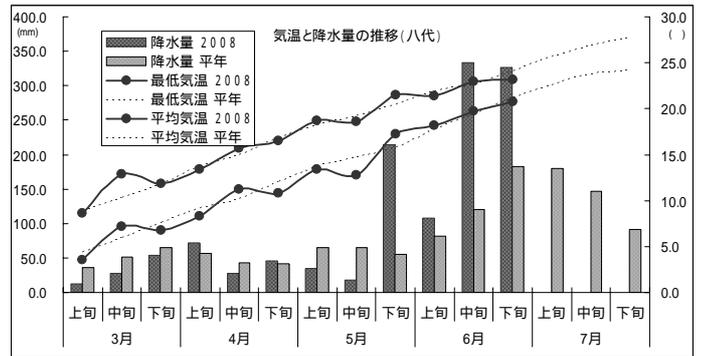
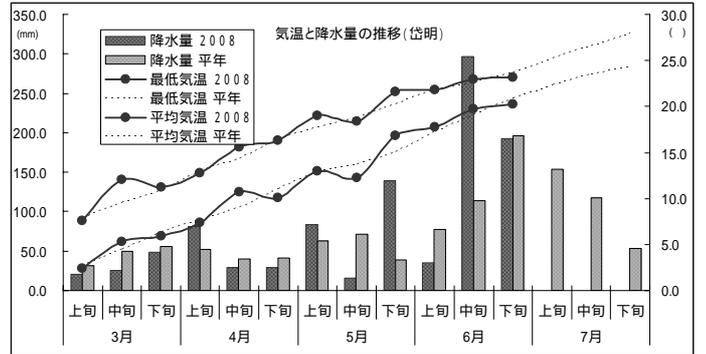
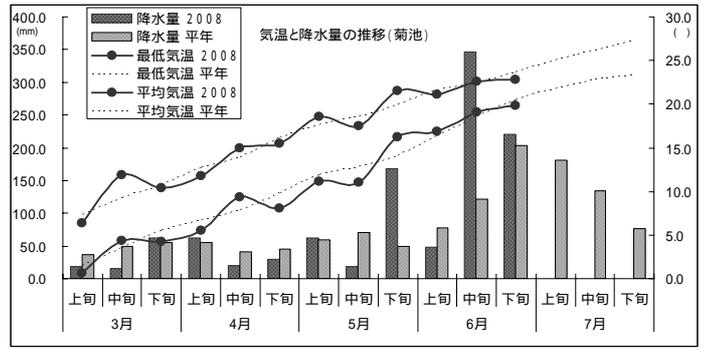


図2. 主要産地の気温と降水量の推移

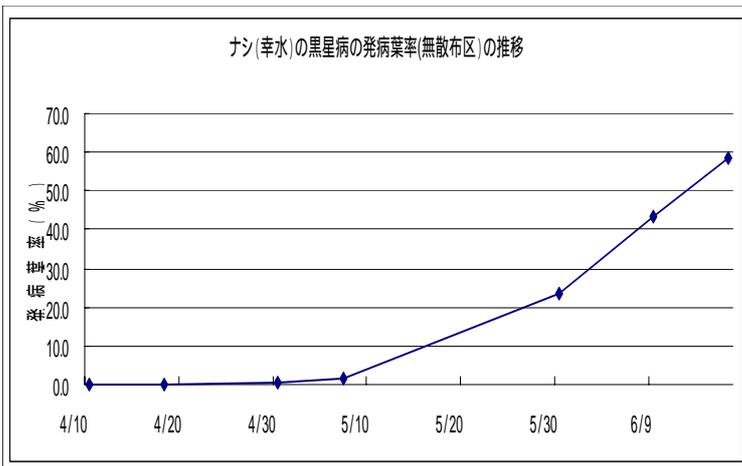


図1. 黒星病発生状況の推移 (H20.果樹研究所)

表2. 主な薬剤の例 (2008,6,25 現在)

DMI 剤

アンビルフロアブル、スコア顆粒水和剤 等

メトキシアクリレート系

アミスター10 フロアブル、ストロビードライフフロアブル、ナリア WDG 等

